

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

山本一彦. 慢性関節リウマチに対する手技療法の臨床的研究. *日本手技療法学会雑誌* 2001; 12(1): 7-15. 医中誌 web ID 2003139616

1. 目的

関節リウマチ患者に対する手技療法の quality of Life に関する有効性評価

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT)

3. セッティング

外来(大学病院)

4. 参加者

成人 RA 患者 20 名 (発症後 2 年以上経過、ステロイド内服 10mg/日 (プレドニン換算)以下)

5. 介入

Arm 1 : 薬物療法+手技療法 (週 1 回) 併用群 10 人

Arm 2 : コントロール群 (薬物療法) 10 人

6. 主なアウトカム評価項目

ACR Core Set (RA 活動性指標)

AIMS-2 (疾患特異的 QOL 尺度)

(研究観察期間は 1 年間)

7. 主な結果

ACR Core Set の中の圧痛・腫脹関節数は両群とも 20%以上の改善を認めた。ACR Core Set の中で、両群において有意差を認めた項目は、医師や患者の疼痛評価であった。AIMS-2 を用いた QOL の変化については、両群とも改善を示す傾向であり、両群において有意差が認められた項目は手指機能、痛み、緊張等であった。

8. 結論

通常治療に手技療法を併用することは身体機能の低下を抑制し、ADL の向上に関与し、RA 患者の QOL 向上に寄与する。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

公的機関の助成金を得て行われた多施設 RCT 研究の経験が生かされて、プロトコールが作成されており、研究助成金の効果は単発では終わらないという実例である。1 年間と比較的長期に亘る観察期間、Outcome に標準的な指標が用いられるなど、よくデザインされており、研究機関としての地力の差というものを感じさせる。しかし、残念なことにランダム化の方法が ID 番号の odds-even を用いているなど脆弱さも垣間見せるが、これらの問題は大学の治験センターの利用などによって解決可能であろう。

11. Abstractor and date

津嘉山洋 2011.12.17